

子吉川水系計画段階における環境影響分析について

環境影響分析報告書について

今回とりまとめた報告書は、子吉川の河川整備計画の策定にあたって、環境への影響を把握するため、既存のデータ等を用いて環境影響の分析結果をとりまとめたものである。なお、分析にあたっては、平成14年12月に出された「河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方」の提言に基づき、環境影響分析を試行的におこなった。

分析結果を河川整備計画に反映

本分析は、既存のデータや検討結果、既存の知見を基本として、河川整備に伴う環境影響分析を実施しており、その結果を河川整備計画（原案）に反映している。

< 分析の考え方の例 >

（河川環境の把握）

シロウオやサケ、サクラマスなどの遡上、産卵

< 河川整備計画の記載例 >

（環境上の対応）

遡上環境、産卵環境を保全

分析の対象となる河川整備の案については治水・利水・環境の機能を満足する案を抽出し、環境影響分析した

治水・利水・環境の機能をもとに満足し実現可能な案としては、「ダム＋河道改修」<河川整備計画 原案> だけであり、分析の検討主体となる。ただし、比較参考とするため、現状維持案と河道改修案について環境影響分析を行った。分析は、以下の分析項目等を3案それぞれについて行う。

分析項目は、

水環境（水量・水質）への影響

動物・植物・生態系への影響

人と自然との触れ合いの活動の場への影響

等で実施した。

その結果、子吉川の自然環境として特徴的な場の保全が可能である事を確認した。